書と音楽の融合芸術

札幌市出身の作曲家・石垣絢子の個展シリーズ「言葉と音楽」は、日本の美しい言葉に焦点を当てた作品演奏会で今年10周年を迎えます。2021年と2023年には札幌市民芸術祭奨励賞を受賞しました。これまで詩を用いた歌曲や童話の朗読付随音楽を中心に発表してきましたが、今回は文字としての言葉に注目し、書家の小杉卓によるライブパフォーマンスならではの筆捌き、和紙の擦れる音、墨の香りを音楽と融合させた作品をお届けします。さらに、札幌交響楽団ヴァイオリン奏者である佐藤郁子の演奏による新曲初演も行います。また、石垣が作曲を志すきっかけとなった作曲家モーリス・ラヴェルの生誕150年を記念して「ボレロ」を書とヴァイオリンとピアノの編成で披露します。ボレロまでのプロムナードとして、ボレロのリズムや旋律断片を引用した石垣作曲の「ボレロ・コラージュ」で曲間を繋ぎ、公演全体を大きなひとつの作品とみなす仕掛けを考えています。

小杉 卓　Taku Kosugi〈書〉

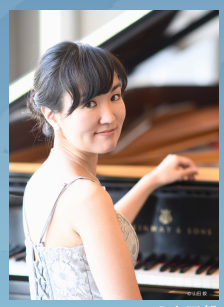
国際基督教大学(ICU)卒業。祖母の書道教室で書をはじめ、これまでに茅島貫堂、鶴見和夫の各氏に師事。2017年から2018年にかけてパリに滞在し研鑽を積む。現在は鎌倉を拠点に活動。「書の教室　鎌倉山」主宰。作品の展示やデザイン提供のほか、書のライブパフォーマンス披露、国内外の美術館や大学での講演・ワークショップを実施している。近年は、音楽と言葉の表現の試みとしての舞台表現「音と言葉の間」に取り組んでいる。企業CMへの出演やワークショップなど、作品制作のほかにもデザインやイベント企画を手掛ける。

佐藤郁子　Ikuko Sato〈ヴァイオリン〉

©K.Seki

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。札幌交響楽団ヴァイオリン奏者。オーケストラでの演奏の他、室内楽やコミュニティコンサート、施設の訪問演奏など地域の演奏活動も積極的に行っている。北海道国際音楽交流協会HIMES、アンサンブルエルヴェのメンバー。アンサンブルエルヴェでは結成時よりコンサートマスターを務めており、第6、8、13回の定期演奏会ではソリストとして共演した。これまでにヴァイオリンを村山英孝、井上需、富岡雅美、内田輝、清水高師の各氏に、室内楽を田中千香士、岡山潔、川崎和憲、神田雅治の各氏に師事。

石垣絢子　Ayako Ishigaki〈作曲・ピアノ・構成〉



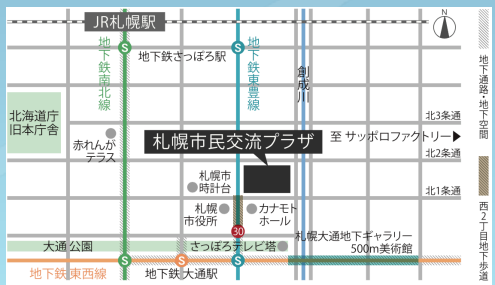
©山田毅

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院修了。2017年札幌市民芸術祭新人音楽会大賞。2008年奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門中田喜直賞の部優秀賞、2024年同コンクール作曲部門第二位。2021年「言葉と音楽」vol.Ⅴで俳優・寺田農と共演し朗読とピアノの新作を発表。2022-2024年東京・春・音楽祭「子どものための絵本と音楽の会」作曲担当。2023年北海道作曲家協会主催「北海道の作曲家展９」にゲストコンポーザーとして無伴奏ヴァイオリン曲を出品（演奏：佐藤郁子）。札幌の女声合唱団「コクテール」「コール・クク」からの合唱曲委嘱や、写真家、イラストレーターなど様々なジャンルのアーティストとコラボレーション作品を制作している。YouTubeで楽曲を公開中。

SCARTSコート
（札幌市民交流プラザ１階）

〒060-0001　札幌市中央区北１条西１丁目

＜お問合せ＞
「言葉と音楽」kotoba.to.ongaku@gmail.com



交通のご案内
札幌市営地下鉄東西線、南北線、東豊線
「大通」駅30番出口から西2丁目地下歩道より直結 徒歩約2分
さっぽろ地下街オーロラタウンから西2丁目地下歩道直結